

東京大学での所属学部/研究科・学年(渡航開始時): 法学部第二類 4 年

留学先大学: The University of British Columbia

留学先所属学部/研究科等: Faculty of Arts

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体 ⑤民間企業
6.起業 7.その他()

1. 留学先大学の概要

The University of British Columbia(以下 UBC)はカナダのバンクーバーにある総合大学。大学ランキングではトロント大学に次ぎカナダ第二位。バンクーバーには中国系移民が多く住んでおり、UBC にもアジア系の学生が多い。国際色豊かな大学。

キャンパスも広大で、緑があふれている。キャンパスのすぐ隣りにはビーチがある。また、レクリエーション施設も整備されており、テニス・水泳・サッカー・スケートなど多様なスポーツが楽しめる。

2. 留学の動機

大学入学当初から留学を視野に入れていた。最大の動機は、東京大学と海外の大学の学習環境・学生の雰囲気などを、実際に現地で生活してみることで比較してみたかったことである。

3. 留学の時期など

①留学前の本学での修学状況: 西暦[2012]年 学部/修士/博士[4]年の[1]学期まで履修

②留学中の学籍: 休学/留学

③留学期間: 2012 年 9 月 ~ 2012 年 12 月 学部/修士/博士[4]年時に出発

④留学後の授業履修: 西暦[]年 学部/修士/博士[]年の[]学期から履修開始

留学後、授業の履修はせず。

⑤就職活動の時期: 西暦[2011]年 学部/修士/博士[3]年の[11]月頃に(行った/行う予定)

⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[94]単位 留学先で取得し、本学で認定された単位[0]単位
留学後の取得(予定)単位[0]単位

単位交換は行わない予定。

⑦入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[2009]年 [4]月入学 西暦[2012]年 [3]月卒業/修了

⑧本学入学から卒業/修了までの期間: [4]年[0]ヶ月間

⑨留学時期を決めた理由

卒業時期を遅らせたくはなかったこと、法学部の卒業要件を満たしてから留学しようと思っていたことから、4 年の 9 月からの留学とした。

4. 留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

東京大学の所属学部・国際課、UBC の留学生担当課からスケジュールや授業登録などの手続きに関する詳細な連絡が来るので、それに従って手続きを済ませれば困ることはない。

専門について。手続きの段階で、留学先での自分の専門を決めることになるが、これはあまり重要ではない。(専門以外の科目をとることが可能。)個人的な話をすると、私は Anthropology を専門として提出したが、結果として Anthropology の授業を一つも履修しなかった。

履修について。授業登録は多めにしておくことをお勧めする。特に少人数授業の場合、後から登録しようとしてもい

っぱいになってしまっていることがある。(その場合にも教授の許可をもらい書類を提出するなど一定の手続きを踏めば履修できることもある。) 東京大学のシステムと同じで、新学期開始後数週間のうちにドロップアウトすれば record には何も残らない。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

1 学期間のみ留学ならば、カナダでの滞在に student visa は必要ないが、途中アメリカ(バンクーバーに近いシアトルなどに週末出かける学生は多い。)を訪問する可能性があるならば、student visa を取っておいた方が出入国がスムーズである。(1 年間留学する場合、ビザは必須。)

ビザの取得には 3 週間から 1 ヶ月ほどかかるため、余裕をもって申請しておくことが望ましい。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

出発前に健康診断・予防接種等の準備は行わなかった。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

UBC 指定の健康保険がある。1 学期のみの生徒と 1 年間の生徒で種類が異なり、1 学期のみの場合は iMED と呼ばれる保険に入る。

個人での海外旅行保険は、カード付帯のものがあつたため改めて別の保険に加入することはしなかった。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

法学部は論文を書く必要がなく、7 学期に履修していた授業の試験は全て留学出発前の 7 月に終わっていたため、特に手続きはとらなかった。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

TOEFL102 点。

TOEFL ではリスニング・リーディングの点がスピーキングに比べて高かったが、授業中教授や生徒が話していることの聞き取りには苦労した。授業中の発言にはなおのこと努力が必要だった。

⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

基本的にバンクーバーでは必要な物はほとんどそろそろ。ダイソーなどの百均や中華系大型スーパーに行けば、日本の調味料・食材・文具・雑貨等も一通り買えるため、絶対に持って行くべき物というのはないが、物価が東京と同じ、または輸入品に関しては日本より割高なため、節約を考えるのであれば以下の物を持って行くことをお勧めする。

・ リネン

UBC の寮のベッドにはリネン類は一切ないので、シーツ・掛け布団等は日本から持って行く、または送るとよい。リネン類は到着後すぐに必要になるが、着いてすぐに安いお店を探して購入するのは難しいため、なおさら前もって準備しておくといよい。

・ 水着、スポーツシューズ

UBC には生徒は無料で使えるプール・サウナ・ジムがあるので、利用する可能性がある人は持って行くといよい。

その他、常備薬など基本的な物は割愛する。

5. 学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。)

単位認定の予定はなし。

- ・ CHIN 105(中国語初級)
- ・ CHIN 204(中国語中級)
- ・ SOCI 205(犯罪学)

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

- ・ CHIN 105、204

学習したことを生徒にその場で実践させるというスタイルが印象的だった。新出単語や文法を用いて、生徒に授業中に文を作らせたり、隣に座っている生徒同士でペアになって会話をさせたりと、「実践」に重きを置いている様子だった。中国語のクラスは毎週4回授業があり、特に204の方は2回に1回小テストがあるなど、復習が必須であった。

- ・ SOCI 205

80人近い大人数のクラスだったにも関わらず、教授と生徒のインタラクティブなやり取りが成立していたのが印象的だった。生徒が積極的に意見を言ったり質問をしたりし、教授がそれを上手くまとめて授業を進行させるというスタイルであった。In-class assignment(授業中に90分の小試験)2つ、中間・期末試験、グループ発表があり、知識の定着を様々な方法で図らせていたように思う。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

UBCの正規生の1学期の平均履修科目は4、5科目(12〜15単位)。私は12単位を取得した。授業時間・大体の勉強時間は以下の通り。

- ・ CHIN 105 1時間の授業を週4回。勉強時間は1日30分ほど。
- ・ CHIN 204 2時間の授業を週4回。勉強時間は1日1時間ほど。
- ・ SOCI 205 3時間の授業を週1回。勉強時間は1週間に6時間ほど。

④学習・研究面でのアドバイス

私は語学の授業を2つ履修したため12単位の取得はそれほど大きな負担ではなかったが、レポートや課題が多く課される授業を履修した場合は、3科目の履修でもかなり厳しいと思われる。

基本的に語学の授業を除き、100・200番台の授業は大人数で行われるものが多い。少人数クラスでのディスカッションや他の学生との交流を目的にするならば、300・400番台の授業を履修した方がいい。100・200番台の授業内容自体は決して難しいものではなかった。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

SOCIの授業は毎週課される文献があった。決して量が法外に多いという訳ではなかったが、英語を読むスピードが遅かったため、予習にはかなりの時間を割く必要があった。自分の語学力を見極めて授業を選択することが大事である。

また、教授やTA(各クラスにつく教授のアシスタント)に自分が留学生であること、英語がそれほど上手でないことを伝えてしまうのも一つの方法である。元々アジア圏の学生が多いため、授業を受けているだけでは教授には誰が留学生かどうか判断できない。自分から助けを求めれば親切に対応してくれたり、その後も気にかけてくれる場合が多いので、授業外でも積極的に教授やTAと話すといい。

7. 生活について

①住居(住居の種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

私は UBC キャンパス内の Gage という寮に住んでいた。6 人が 1 ユニットで暮らした。(個々人に部屋があり、バスルームとキッチンが共用。) UBC 内には複数の寮があるが、Gage はバスループに近く、また今回私がとった授業が行われる建物にも近かったため便利だった。交通の利便性を考えると、Gage か Fairview をお勧めする。

見付け方・値段等は UBC から送られてくる案内と web ページに掲載されている情報を参照のこと。

鍋や皿などキッチン器具は何もないため、買いそろえる必要がある。ルームメイトと食器類や料理道具をシェアできればコストを抑えることができる。

トイレが詰まった、冷蔵庫が動かないなど、何か不具合があった場合にもネットを通じて修理の要請ができ、早急に対応してもらえた。1 階のフロントには 24 時間人がおり、困った時には何でも聞くことができる。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

9~10 月上旬までは快晴の日が多い。それ以降は雨の時期になる。カナダというと寒いというイメージが強いが、バンクーバーは西岸にあり、東海岸のトロントなどに比べると冬の気候はそれほど過酷ではない。東京と同じぐらいの寒さで、雪もそれほど降らない。

主な交通期間はバスと電車。UBC の学生は UPass と呼ばれるカードが発行でき、それを見せれば乗車賃を払う必要がない。

Gage はキッチン付きのため、自炊が基本だった。キャンパス内には食事をできる場所が多くあるため、外食も可能。

支払いはクレジットカードが主だった。小規模の個人商店でも大抵カードが使える。また、Citi Bank にあらかじめお金を振り込んでおき、カナダドルでお金を引き出すこともあった。実家から送金をしてもらうことはなかった。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

バンクーバーは夜も出歩く事ができる、比較的安全な街。(一部治安の悪い地区はある。)歩いて身の危険を感じることはなかった。

キャンパス内に病院があり、具合が悪くなったらそこで診てもらえる。私は受けなかったが、インフルエンザの予防接種も無料で行えるらしい。

性格柄ホームシック等にはならなかったが、留学生の中には、家族とスカイプをしている者もいた。留学生用の相談室なども整っているため、何か問題があったら迷わずにそこに行くのがいいと思う。また、留学生の Facebook ページもあり、そこで頻りに情報交換や質問などが行われていた。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

授業料は東大に収めていたため、UBC には払わなかった。

・ 毎月の生活費とその内訳

項目		金額
食費		4 万円
交際費		2 万円
合計		6 万円

・ 留学に要した費用総額とその内訳

項目		金額
航空券		20 万円
初期費用	キッチン道具	2 万円

	雑貨(シャンプー・リンス、ハンガーなど)	2万円
	教科書	2万円
住宅費	寮(水道・電気など込み)	22万円
保険	iMED	2万円
生活費		24万円
合計		74万円

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

長島奨学基金 月 10 万円、4 ヶ月

東京大学の Go Global の web ページで見付けた。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

UBC ではサークル活動だけでなく、一般の学生に開かれた様々なボランティア活動が行われていた。例えば、留学してすぐに Cystic fibrosis という病気の患者のための募金活動に参加した。5 人ほどのグループで街に出て募金を募った。そこで初めて会った学生と半日を過ごし、カナダ人の人柄に触れることのできた貴重な経験だった。

他に、放課後に経済的に困窮している家庭の子供達と遊ぶボランティアに参加した。週一度、小学校の体育館で子供と本を読んだりゲームをしたりした。

3 連休の週末には、シアトルやビクトリアへ 1 泊の旅行に出かけた。また、ウィスラーという有名なゲレンデがあり、そこへ留学生 60 人ほどでスキー旅行にも行った。

8. 留学先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

UBC には英語を母国語としない学生をサポートするプログラムがある。アドバイザーと面談し、個人に適した学習方法・UBC での生活の仕方についてアドバイスもらえる。

各クラスに TA がおり、教授だけでなく、より身近な TA に質問することができる。

試験期間前には質問を受け付けるコーナーが設置されるなど、学生の学習をサポートするプログラムが多くある。自分に適したものを見つけて適宜利用できる。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館はキャンパス内に複数ある。最も大きな Irving という図書館は試験期間前には 24 時間開いている。飲食可能。PC・プリンターが設置されている。

スポーツジム、プール、アイススケートリンク、サッカーグラウンド、体育館など、様々なスポーツ施設がある。

カフェは図書館や授業を行う建物など様々なところに設置されている。キャンパス内に中華、フレンチなどのレストランもある。SUB と呼ばれる場所にはフードコートもあり、屋間は非常に込み合っている。

9. 留学と就職活動について

留学前に就職活動を終えていたため、以下の問いには当てはまりません。

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- 1.研究職 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) 3.公的機関(機関名:)
4.非営利団体(団体名又は分野:) ⑤民間企業(企業名又は業界:コンサルティング)
6.起業(分野:) 7.その他()

10. 留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

私の場合は、何か学問的なものを学ぼうとUBCへの留学を決めた訳ではなく、海外における学生の環境を実際に見る、海外で暮らすという経験をする、ということが留学の目的でした。この目的は十分達成されたと思います。

UBCの学生は試験前には本当に鬼気迫る様子で勉強しています。夜遅くまで寮のコモンスペースでPCを打ったり、図書館にこもってひたすら教科書を読んだりしていました。

また、募金活動やInternational food night、ハロウィンパーティーなど、誰でも参加できるイベントが東大に比べて多かったように思います。初めての人と自己紹介し、仲良くなるということが普通に行われるため、気軽に友達を作ることができました。

見聞が広がった、と一言で表現するのは簡単ですが、本当に多くの出会いと学びがありました。日本に留まっていたら決して得られなかった経験です。

②留学後の予定

3月に卒業後、就職。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

自分がどうして留学をしたいのか、目的を明確にしてください。そして、実際に現地に行ったらその目的を定期的に思い出してください。目的から外れていないか、目的のためにやれることをやっているか。

例えば何か勉強を頑張りたくて海外の大学に行ったなら、真剣に取り組んでいるか。英語力を上げるために行ったなら、毎日ネイティブの友達と話しているか、授業で積極的に発言出来ているか。

留学生活は自由です。部屋にこもってネットサーフィンで一日を終えることも、友達と街に出て肌で現地の雰囲気を感じて休日を過ごすこともできます。単に知識を得るだけの学習なら、母国語を使って自分の大学で行った方が余程効率的です。つつい楽な方向へ流されてしまいがちですが、何が目的で何十万も払って海外の大学に来ているのか、それを忘れずに生活してほしいと思います。

11. その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

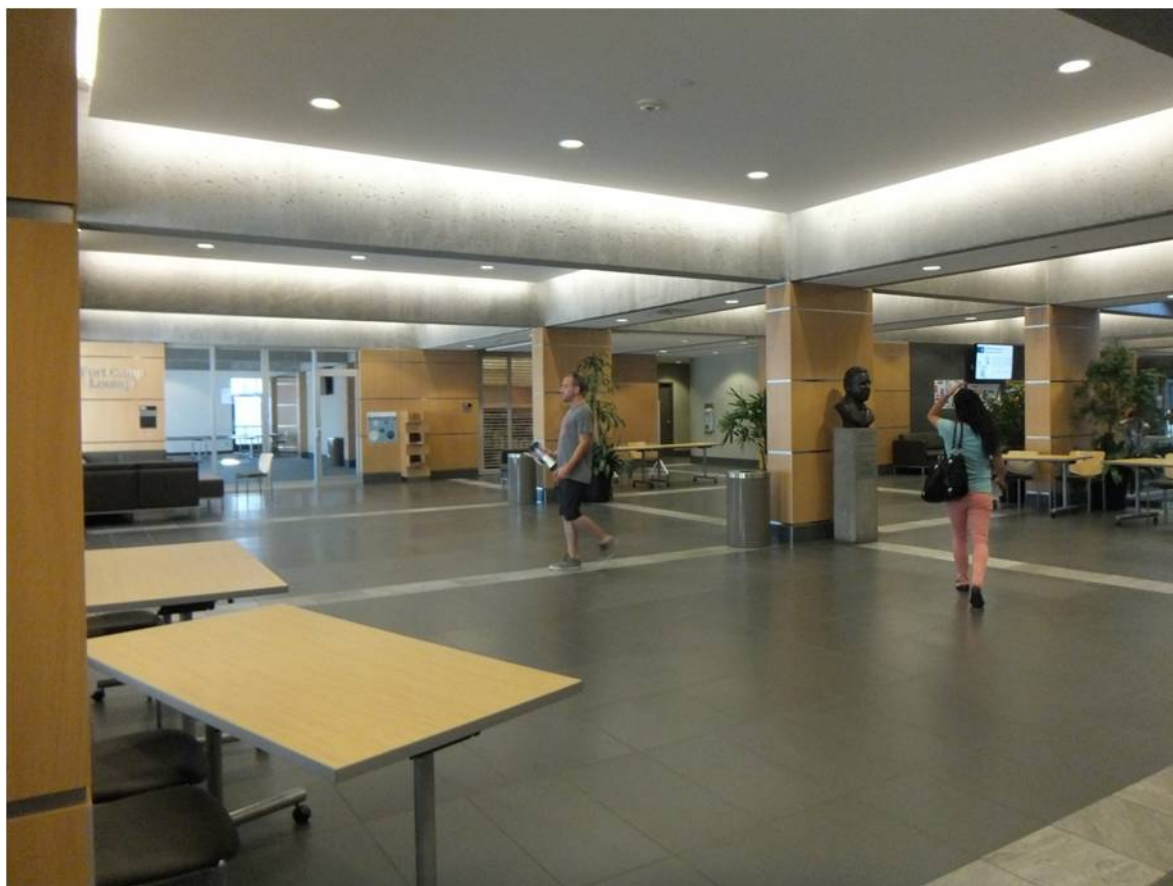
- <http://www.housing.ubc.ca>
寮に関する情報がある。
- <http://elearning.ubc.ca/lms/login-to-vista/>
UBCのオンライン学習サービス Vista
- <https://courses.students.ubc.ca/cs/main>
シラバス

その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

- ・ Gage の外観



- ・寮のコモンスペース



・SUB(飲食店が集まっている場所)



・図書館の外観



東京大学での所属学部/研究科・学年(渡航開始時):

留学先大学: University of British Columbia

留学先所属学部/研究科等: Faculty of Arts

卒業・修了後の就職(希望)先: 7.その他(大学院)

現在の所属学部/研究科・学年: 文学部・4年生

1. 留学先大学の概要

University of British Columbiaはカナダ西部を代表する州立総合大学です。バンクーバー中心部からバスで30分ほどでアクセスはとても良いです。402ヘクタールの(東京ドーム約85個分)の大学の敷地は国定公園に囲まれるとともに、太平洋にも面しており、カナダの自然の雄大さも体験することができます。学部学生で母語が英語の人は5割程度という数字からもわかるとおり、世界中から学生が集まっており、多文化主義を国家政策として掲げるカナダという国を理解するにもよい環境です。

2. 留学の動機

- 1.英語力向上
- 2.専門分野の追及
- 3.海外大学院情報の収集

3. 留学の時期など

留学前の本学での修学状況: 西暦[2012]年 学部[3]年の[夏]学期まで履修

留学中の学籍: 留学

留学期間: 2012年9月 ~ 2013年4月 学部 [3]年時に出発

留学後の授業履修: 西暦[2013]年 学部 / [4]年の[冬]学期から履修開始

就職活動の時期: 西暦[]年 学部 / 修士 / 博士[]年の[]月頃に(行った/行う予定)

本学での単位数: 留学前の取得単位[126]単位 留学先で取得し、本学で認定された単位[21]単位(予定)

留学後の取得(予定)単位[30]単位

入学・卒業 / 修了(予定)時期: 西暦[2010]年 [4]月入学 西暦[2015]年 [3]月卒業

本学入学から卒業 / 修了までの期間: [5]年[]ヶ月間

留学時期を決めた理由 2年生の時に留学するのが望ましいと考えていたが、進学振り分け等の都合で留学がしにくく、進学後となった。

4. 留学の準備

留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

必要書類取得に時間がかかることがある(TOEFL 公式スコアレポート等)ので、時間に余裕をもって準備をすすめるのが望ましいと思います。

ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

日本国籍の方ならカナダ入国時にビザを取得することはそれほど難しくないと考えます。バンクーバーの人はよくアメリカへいきます。日本国籍の方は基本的に簡単にアメリカへ入国ができます。でも、もし国籍が日本でない場合、アメリカへ入国の際ビザを要求されることがあると思います。取得に時間がかかる国もあると聞いてますので、事前に調べておいた方がいいでしょう。(私は日本国籍でビザで問題が起こったことがなかったのですが、中国や東南アジアからの交換留学の友人で問題が起こっている方はいました。)

医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特になし。

保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東京大学に事前に海外旅行保険に加入することを求められるので最低限のプランには入りましょう。また BC 州でも医療保険に入ることを義務付けられます。相当のお金がかかりますので、保険のためにお金がかかることを事前準備の段階で知っておいた方がいいです。

留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) 通年科目の単位分割履修の認定を指導教官にいただきました。

語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

出発前までにとった資格等は以下です。

英検 1 級(高校 2 年)

TOEFLibt103/120(大学 2 年)

TOEIC985/990(大学 3 年夏・留学直前)

留学直前は英語で開講されている専門の授業をとって準備していました。

日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
歯の定期検診(歯科治療費は通常医療保険ではカバーされず、現地で治療を受けると高額になります。)

5. 学習・研究について

履修した授業科目のリスト(そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに をつけてください。)

SOCI201A

SOCI302A

SOCI461B

URST400

HIST485

ANTH415

GERM110

(全科目申請予定)

留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

授業名の 100 番台が 1 年生、200 番台が 2 年生、300 番台が 3 年生、400 番台が 4 年生と、レベル別に構成されていたのですが、300 番台と 400 番台の授業はレベルの違いはさほど感じませんでした。どの授業もリーディングの課題があるため、予習がとにかく多かったです。一つの授業が週に複数回あるため、1 学期につき 4 つ授業をとるのが標準でした。ほとんどのコースは授業の最後にリサーチペーパーを提出だったのですが、HIST485 は映像を提出しなければならず印象に残りました。どの授業も学生の発言が積極的に求められました。

1 学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など
1 科目あたり週に平均 3~4 時間程度授業外での学習が必要のように思われます。

学習・研究面でのアドバイス

リーディング課題をこなすのが最初は大変かと思いますが、次第になれてくると思えます。授業についていくために、毎回の授業で一度は発言するように心がけるといいと思います。

語学面での苦労・アドバイス等

英語を本格的に勉強し始めたのが小学校高学年からだったので、発音の矯正がうまくできおらず、理解してもらえないことがあって苦労しました。UBC には言語パートナーをつくるシステムがあり、そこでパートナーをみつけて毎週 1 時間英語の発音の特訓を受けていました。

7. 生活について

住居(住居の種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舍の様子、見つけた方法など)

大学が提供している"Fairview"という名の Student Housing。形態は 4 人のシェアハウス(キッチン・リビング・シャワー共有で各自個室)で、たしか英語では Townhouse と表記されていると思います。UBC に来られる方は Totem, Vanier, Fairview, Gage, Marine などいろいろな場所のいろいろな形態の Student Housing から選択する形になることになると思いますが、Fairview か Gage か Marine の 3 つうちのいずれかが交換留学生には人気があるように思い、私も Fairview を選んで正解だったと思っています。

住居は留学生活の半分を決めるといっても過言ではないと思うので、よく考えて決めましょう。実際に UBC に留学していた人数名にコンタクトをとって話を聞き、自分にあった住居を選ぶことを強くお勧めします。

生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

天候

夏は非常によい天気、素晴らしい場所ですが、冬は最悪の天候で、毎日雨がふっているといても過言ではありません。雪はめったにふりません。気温は冬は東京より少し暖かく、夏は東京より涼しいといったかんじです。

大学周辺

学内が一つの街ようになっており、買い物等も学内で済ませることができます。日本食(カレーのルー、うどん、めんつゆ、醤油等)も学内で買えます。ダウンタウンへはバスで 30 分ほどで、交通の便は非常によいです。

お金

現地はカード社会なので、現地に到着後、銀行口座を開設することをお勧めします。Citibank 等の口座を日本で開設し、いつでも現金を引き出せるようにしておくとう便利です。またクレジットカードは必須です。

危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

特に危険を感じたことはありませんでした。親不知が炎症を起こしたときに、医療保険では歯科治療費はカバーされないのが困りました。

留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費(寮費を含む)とその内訳

月 9 万円程度

内訳

寮費:5 万円

食費:2.5 万円

娯楽費:1 万円

その他:5 千円

・留学に要した費用総額とその内訳

約 200 万円

留学中の東大への学費:50 万円

保険等:15 万円

航空券:20 万円

生活費:35 万円

寮費:40 万円

旅行費:30 万円

教科書代:5 万円

その他:10 万円

奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

経団連グローバル人材育成スカラーシップ(給付型)

支給額:留学前に一括で 100 万円

学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

現地で行った友人たちとの旅行等

8. 留学先大学の環境について

留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

かなりきめ細かなサポート体制が構築されており、International House というところへいけば幅広い問題に対処してくれるようです。

大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

Wifi 環境、図書館、学食どれも充実しています。

9. 留学と就職活動について

(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど
大学院進学希望のため、就職活動する予定はありません。

(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響
留学を通して、修士号をとってから就職活動しようという思いに至りました。

留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

特になし

就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

1.研究職 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) 3.公的機関(機関名:)

4.非営利団体(団体名又は分野:) 5.民間企業(企業名又は業界:)

6.起業(分野:) 7.その他()

10. 留学を振り返って

留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

留学を通して世界中からいろいろな目標をもった学生に出会い刺激を受けました。当初目標として設定していた英語力の向上や大学院の情報の収集や専門分野の習得だけでなく、より幅広い視点がもてるようになったと思っています。

留学後の予定

卒論執筆に向けた準備を始めます。

今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

いろいろ障壁はあると思いますが、チャレンジしてみる価値はあると思います！

11. その他

準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(渡航開始時):

留学先大学:ブリティッシュコロンビア大学

留学先所属学部/研究科等:教養学部政治科学

卒業・修了後の就職(希望)先: 5.民間企業

現在の所属学部/研究科・学年:文学部行動文化学科 4年

1. 留学先大学の概要

ブリティッシュコロンビア大学はバンクーバーにあり。広大なキャンパスで天気の良い日は散歩をしてキャンパス内の自然や動物を楽しむことができます。

2. 留学の動機

日本に比べてもてはやされている北米の大学教育がどのようなものであるか体験してみたかった。日本から一度飛び出してみたかった。

3. 留学の時期など

留学前の本学での修学状況: 西暦[2012]年 学部 [4]年の[1]学期まで履修

留学中の学籍: 留学

留学期間: 2012年 9月 ~ 2013年 4月 学部[4]年時に出発

留学後の授業履修: 西暦[2013]年 学部[4]年の[2]学期から履修開始

就職活動の時期: 西暦[2013]年 学部[4]年の[6]月頃に(行う予定)

本学での単位数: 留学前の取得単位[70]単位 留学先で取得し、本学で認定された単位[未定]単位
留学後の取得(予定)単位[14]単位

入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[2009]年 [4]月入学 西暦[2014]年 [3]月卒業

本学入学から卒業/修了までの期間: [5]年[0]ヶ月間

留学時期を決めた理由

留学を決めたのは三年の夏が終わってからで、その時期に応募できるプログラムを探していたところ、全学交換留学を見つけました。多くのプログラムが開始時期の一年前に募集を終了するので、留学を考えている人は早めに行動するといいと思います。

4. 留学の準備

留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

派遣先大学との手続きはほとんどスムーズに行きました。返信も早く親切に対応してください。

ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

学生ビザ、カナダ大使館。かかった時間は一週間程度、申請はすべてオンラインでできるので必要な書類を手に入れるのにかかる時間がそれくらいだったと思います。

医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

カナダでは州加入必須の健康保険があるので、私費で保険をかける必要は必ずしもなかったかもしれませんが。ただし補償の上限が違い万が一カバーされないということもあるのでしっかり確認すればいいと思います。

保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

ジェイアイ傷害火災 留学保険

留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

通年科目(ゼミ)の単位分割認定、留学届、派遣中に新年度を迎えるのでゼミ選択届。

語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

出発前は TOEFL 試験の準備のみ。

日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

出発前に、クレジットカード(キャッシュカード)や日本からの送金手段を整えておくといいと思います。

公的な手続きは基本的に日本にいる間にやっておかないと非常にめんどくさいです。

5. 学習・研究について

履修した授業科目のリスト(そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに をつけてください。)

SOCI 210A

SOCI 301A

SOCI 461B

ECON 211

POLI 220

POLI 366

SPAN 102

単位申請は未定。

留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

予習で毎週指定されたリーディングをしました。ディスカッションのクラスはレクチャーの内容や予習から行うので復習代わりにになりました。印象に残っているのはどのクラスでも必ず採点基準やシラバスが週単位で決定されていることで、学期が始まる前から履修をほぼ確定させることができます。授業中に PSI のガンナムスタイルを流し始める先生

がいたのには驚きました。

1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など一学期は3つ、二学期目は4つ履修しました。

授業時間は一科目三時間、+ ディスカッションが一時間ある授業もあります。

授業時間以外では週に約20時間程度は勉強していたと思います。

学習・研究面でのアドバイス

積極的にオフィスアワーに行くことが大事だと思います。

留学生で苦労していることを伝えると先生もフォローしてくれます。

語学面での苦労・アドバイス等

派遣期間の当初は、授業におけるディスカッションなどに苦しんだが、期間の終わりごろにはほぼ不自由なく議論に参加することができるようになった。また授業で課されるリーディングに関しても、当初は全く追いつくことができなかったが、読むスピードもあがり短時間で概要をつかめるようになった。エッセイなどを書く際の英語には最後まで苦労した。どうしてもネイティブスピーカーにチェックをしてもらうことが必要で、時に意味がとれないと指摘されることもあった。

7. 生活について

住居(住居の種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

寮、食事つきで選んだが口に合わず、できれば自炊のできる住居を探すのがいいと思います。

一年生寮は夜間は騒がしく一カ月で退寮される人もいました。寮でのイベントもあり交流することはできますが年代があまりに離れていると苦労することが多いのではと思います。(一年生寮は本来19まで)

生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

夏はすばらしいと聞いていますが、秋口から冬にかけてのバンクーバーは雨しか降っていない印象です。朝も日がのぼらず、夕方五時にはすでに暗く、少し憂鬱な季節が長いです。

大学支給のバスパスがあり、市内ならバスパスを使えます。お金は基本的にミールプランのカードとクレジットカードを使用していました。

危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は基本的に良いので特に不安はありませんでした。

歯医者だけ保険がきかなかつたので、注意しておいた方がいいです。

留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

住居費\$500,食費\$400

・留学に要した費用総額とその内訳

約105万円

保険13万

航空券16万

寮費20万

食費30万

教科書代10万

雑費15万

奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

80万円、東京大学海外派遣奨励費、東京大学のHP

学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

長期休暇は旅行でメキシコやアメリカに行きました。

週末はスキーに行ったり、友達とバーに行くなどしました。

8. 留学先大学の環境について

留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

語学面:ランゲージエクステンションなどのプログラムや、非ネイティブスピーカー向けの英語の授業などがあり充実していた。

学習面:オフィスアワーが各先生で設定されていた。

大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館は夜1時まで開いており、試験期間中は24時間。ただし非常に込み合っていたのであまり利用しなかった。レファレンスサービスなども使いやすかった。

9. 留学と就職活動について

(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

あまり海外での就業にこだわらなくなった。

留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

ボストンキャリアフォーラムなどに参加予定であれば、日本にいううちにOB訪問や企業研究などすませておかないと留学中は勉強も忙しくなるので思うように準備ができなくなると思います。

就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

1.研究職 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) 3.公的機関(機関名:)

4.非営利団体(団体名又は分野:) 5.民間企業(企業名又は業界:)
6.起業(分野:) 7.その他()

10. 留学を振り返って

留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
多くの国からの留学生と話して、考え方や文化の違いを実感しました。
海外のいいところばかり取りざたされますが、日本のいい所を再認識しました。
留学後の予定

就職

今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
おに余裕があるのであれば、とてあえず一度海外で長期過ごしてみるのもいいかと思ひます。
人それぞれ適応の仕方があるかと思ひますが、海外のいい所、日本のいい所、両方認識できるのがいい機会だと思ひます。

11. その他

準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
GO Global

その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。